

令和元年9月20日

日本化学繊維協会
東京都中央区日本橋本町3-1-11

アクリロニトリル排出削減の取組状況及び今後の見通しについて

1. アクリロニトリル排出削減の実績推移

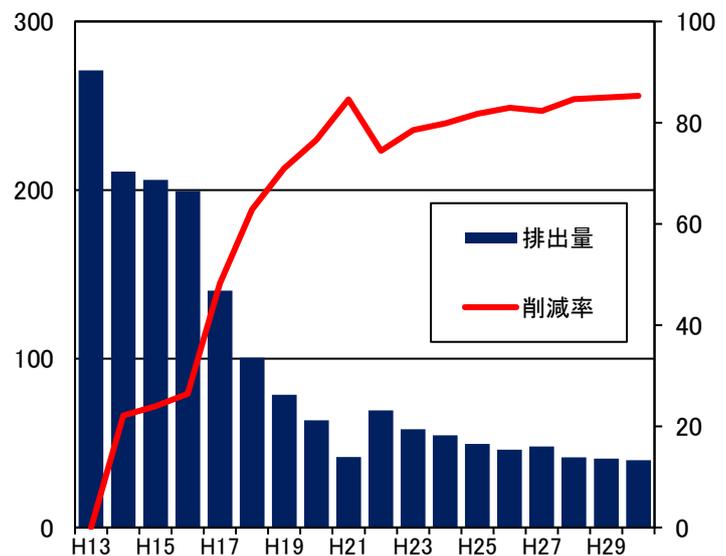
- ・当業界では、アクリル繊維を製造する際、その主原料としてアクリロニトリル(AN)を使用している。
- ・平成13年度以降のAN排出削減実績は図表の通りで、平成30年度までに85.3%の排出削減を果たしてきた。

AN排出削減の実績推移

年度	AN大気排出量 (kg)	削減率 (%)
H13	271,000	-
H14	211,000	22.1
H15	206,000	24.0
H16	199,400	26.4
H17	140,400	48.2
H18	100,700	62.8
H19	78,700	71.0
H20	63,460	76.6
H21	41,730	84.6
H22	69,340	74.4
H23	58,160	78.5
H24	54,660	79.8
H25	49,520	81.7
H26	46,210	82.9
H27	48,000	82.3
H28	41,610	84.6
H29	40,800	84.9
H30	39,830	85.3

AN大気排出量(千kg)

削減率(%)



※日本化学繊維協会の会員企業(アクリル繊維製造企業)
のPRTR届出データ(大気排出量)の合計値

2. 排出削減の取組状況

- ・平成28年6月の3省合同審議会では平成26年度実績までを報告したが、それ以降、平成30年度までに13.8%削減した。
- ・AN貯蔵タンクの改善、製造工程の未反応ANモノマ回収等、一定の効果が期待できる対策は平成27年度頃までに実施済みで、現在及び今後の対策は、従来以上の費用や技術が求められるにもかかわらず効果が限定的な対策となるが、更なる排出削減のために継続的に努力していく。
- ・現在及び今後の対策としては、従来の対策の一層の強化(未反応モノマ回収効率改善、スタート作業時間短縮による非定常時のAN排出削減)の他、極めて希薄なAN回収技術として、蒸留回収、活性炭吸着回収等を講じている。

3. 今後の見通し

- ・新たな対策を検討中の会社を含め、アクリル繊維関連のAN大気排出量は令和7年度頃までに12,600kg程度(平成13年度比95.4%削減)に改善され、平成28年3月の3省合同審議会においてPRTR情報に基づく排出源ごとの暴露シナリオによる評価で指摘されたリスク懸念箇所は解消されていく見込みである。

以上